

幼児教育実地指導研究会

分科協議会より

絵画製作

指導 林 健 造

なりました。

問 自動車や花というように、同じものばかりかいている人はどうしたらよいでしょうか。

A 私のところは鉄道員の子どもで機関車の前だけしかいつも描かないので、二か月位たつてから紙を大きくしてだんだん長くしていくと、大きな汽車をつくりあげたのです。だんだん子どもの目が深くなっていくのではないかと思われました。同じ絵をかくというよりは、発展していく創造性があります。

林 絵を描かない子ども他に、いつも同じところに停まっているという二つの問題があります。それについては、絵を描く前の段階に導入の価値を認めている方もあります。またお絵描きというのはクレヨンと白い紙だと考える方もあり、絵というものは物を描かなければいけない、チューリップとか自動車、も

問 絵の導入方法についてお話ししてください。
林 導入であるからこれにあてはめなさい、ということはありません。子どもの造形活動のものになる心づくりとか、教室づくりが重要です。したがって、臨機応変のものだと思います。地域や環境の問題もあるし、子どもと先生の自然の雰囲気の状態からくる場合があり、お話からくる場合と視聴覚、ラジオやテレビを利用することもあります。

問 二年保育児の中に絵を描きたがらない子どもが大ぜいいますが、どうしたらよいでしょうか。

A 私は年少児の経験はありませんが、まず最初に絵を描かせるのではなく、絵に関連し

たもので遊ばせることだと思います。たとえば、雑草をつまみ、汁を出させて、画用紙の上にごすりつけたり、やわらかい石の粉をけずったり、さわったり、ならべたり、自然物を利用するのも良いと思います。絵の具でスタンプ遊びをしたりして絵を描く前の段階で、うんとあそびさせるようにしたらよいのではないのでしょうか。

林 ええ、そうですね、今のは良い御意見でした。このことでいろいろ苦労している方もあるでしょう。

B 私は筆の先に自動車の小さい絵をつけて、「自動車競争をしましょう」といって遊ばせたりしましたら、描かない子が描くように

う少し進むと印象画など、遠近法ができなくてはいけない、という人もいます。自分はどこにあたってあるか考えてみてください。

絵を描かない子どもには幾つかの原因があります。空白の恐怖ということがいわれます。それは空白に対する恐怖を解除してやれば恐怖ではなくなりますし、白い代りに色紙を使ったり、新聞紙を使ったり、包み紙でも良いのです。また、庭で棒切れで描くこと程良いことはいずれです。

物を描くように強要している母親は、物さかのようにかくようにとしつけていると、子どもはかえってかきたがります。また子ども自身の経験の乏しい場合にも描きません。それを解決するには、恐怖をとりのぞくこととか、紙のおおきさ、形、色の問題、教師、園などについても考える必要があります。ここに一つの例をあげてみますと、ショウ女史の書いた本の中にフィンガーペインティングをを使って清潔好きな子どもを扱ったものがあります。フィンガーペインティングをすると、清潔好きの子どもは、いやな顔をしてやらないので、ショウ女史が「私の手の上に乗るなさい」といって、手の上に子どもの手をのせて描いていたが、突然ショウ女史が手をはなれ

たので子どもの手には絵の具がべったりついてしまったのです。そこでその子は描くようになつたそうです。

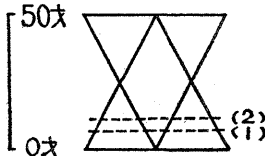
同じものばかりを描いているという問題ですが、これは、自分の最も得意な世界にとじこもろうとしているのです。自信がなくて新しい世界を開拓していく勇氣がないのです。そこで少しでも絵が変わってきた時に賞めてやります。また、間にことばをさしはさんで絵を進めます。これを追い込みの方法といっています。

問 自然発生的グループの指導について教えてください。

林 まともに考えますと、複雑な問題です。自然発生的グループの指導はどうしたら良いかということですが、絵画製作というのは、ひとりひとりの子どもを重んずる活動です。特にお山の大将であり幼稚園では主観の世界であるから、グループとか、共通指導はしにくい、子どもは誰でも自分が中心になって活動をしたがるのでむずかしいのです。しかし、仲の良い子どもたちはグループになつています。

ここで第一に問題になることは、子どもが萎縮しないことがあります。その他一諸にすることのほかにプラスアルファがあれば良いのです。そのプラスアルファが何であるかということが重要なのです。それは、五、六人でしたことよって非常におもしろいものになつたというのもプラスアルファです。誰かの考えが自分の考えにプラスアルファされた。また、先生が「すばらしいわね」ということもプラスアルファ

です。そしてこのプラスアルファをどのようのばしていくかということが大切なので、個人指導が一番大切ですが、グループ指導も大切です。まんべ



んなく公平に指導することが必要なので、どうしたらよいでしょうか。

林 それは簡単に説明できません。この絵は、等辺三角形を二つ合わせたものですが、これを〇歳から五十歳とします。下の三角形は自己表現の世界で逆の三角形は社会性、全体性という世界です。このように考えると、幼稚園の子どもはどこにあたるでしょうか。

だいたい(1)にあたるでしょう。また中学生は(2)にあたるかもしれません。人間は「おぎゃあ」と生れた時から社会的人間ですが、その占める位置は小さいのです。ですからここでは社会的なことができなくても誰も笑いません。幼稚園の場合は、個人的なことが多く

音 楽 リ ズ ム

問 リズム音痴の矯正法についてですが、リズム音痴は幼児期におさねばならないのでしょうか。それとも小学校まで放っておいてもいいのでしょうか。

戸倉 幼稚園・小学校にはいった子どもにスキップをさせると、四十人の子どもが四十人とも全部できるということはない。一人、二人は必ずできない。このような子どもには、無理に直そうという努力はしない。一例をあげると、幼稚園にはいつてきた「花子」は、スキップができないで黙ってみているだけである。そのうちに、よくできる「千代子」と一緒に手をつながせると、始めはできなくて一緒にかけているだけであったが、六か月頃になるとだんだんスキップができるよ

うに好きなことをどんどんすることがあっていいのです。しかし幼稚園になると、社会性が幾分含れてきますから社会性を全く無視することはできません。成人すれば知的なりリズムを描くのですが、幼稚園では知っていることを描くのです。

指 導 戸 倉 ハ ル

うになった。このようにできない子にも母親に連絡をとって「そのうちにできるようにする」と伝えて心配させないようにしてください。こういうやり方は決して不親切ではなく、やっているうちに自然に感覚の中にはいつてきてできるようになります。

問 いつも疑問に思っているのですが、スキップやギャロップまたはアクセントをつける動作など基本的なものと創作表現とをどのように取りまぜたらよいでしょうか。私たちは、ときどき既成の遊戯をとり入れると子どもは喜ぶのですが、それを創作表現にどのようにもつていったらよいでしょうか。

戸倉 創作については、どなたもつきあたっていらっしやる問題だと思います。遊戯とは、いわゆるダンスと呼ばれているもので、小学校ではリズム運動、中学校ではダンスと名称が違います。それは、身体の発達程度に合わせて遊戯がつけられるからです。私たち幼稚園でやる遊戯は、ダンスの末分化のものだと考えていただきたいのです。

私たちの思うことを音に表わしたら一連の曲ができます。私たちの思うことを色で表わすなら絵になり、それをことばであらわしたら作文や詩になります。そして、私たちの思いの身体の作文がダンスです。このダンスは年とともに変化してきました。時代によって、地方によって、またはその形式によって、種類が分けられています。私は、生活の中で遊戯やダンスをながめるのが一番良いと思います。

私は身体の作文であるダンスを三つにわけたいと思います。

皆さんがバレエを見に行く。これは、芸術の鑑賞です。パーティなどで社交ダンスをする時、フォークダンス・スクエアダンスをおやりになると、それは民謡を踊ったことにな。学園でするダンスは、舞台のものではあ